

# 基幹事業の収益を新事業に投じ、 継続的に新事業展開を実施

株式会社 タカトリ

## 地元奈良県へのこだわり

奈良県の大和高田から橿原にかけては、繊維や靴下などの工業が発達し、中でもパンストの生産量は日本一だ。タカトリは、パンスト製造に欠かせない縫製機械で世界一のシェアを獲得した後、その技術を活かして電子機器製造装置に分野を拡充、マルチワイヤーソーの世界ナンバーワン企業に成長した。現在では液晶・半導体産業において欠かせない企業であるタカトリの福光経営企画室長に成長の軌跡や新分野開拓等について伺った。

「創業者であり現代表取締役会長でもある高鳥王昌は、終戦後、機械業の勉強をするため知人を通じて大和高田市へと赴き、奈良県工業試験場の一角を借りて、中小企業の相談に応じつつメリヤス機械の修理業をはじめました。そんな

中、自ら機械の開発・製造にも着手するようになり、吉野葛粉砕機の開発に成功しました」

それまで農家の人が手作業で苦労していた作業の機械化には、様々な機械メーカーが挑戦したが、完成することができなかった。高鳥会長は、「人をあつと言わせるモノを創る」という執念で製品化に成功し、これをきっかけに、機械メーカーとして成長していった。今やグローバル企業として世界市場展開しているタカトリだが、その拠点は創業時から変わらず、奈良県だ。

「創業の地である奈良において事業を継続しているのは、創業者の王昌が、事業化を進める中で、奈良県の支援機関に力添えをいただいた恩義に報いたいと考えているからです。弊社は今後も奈良県を拠点に事業拡大を考えています」

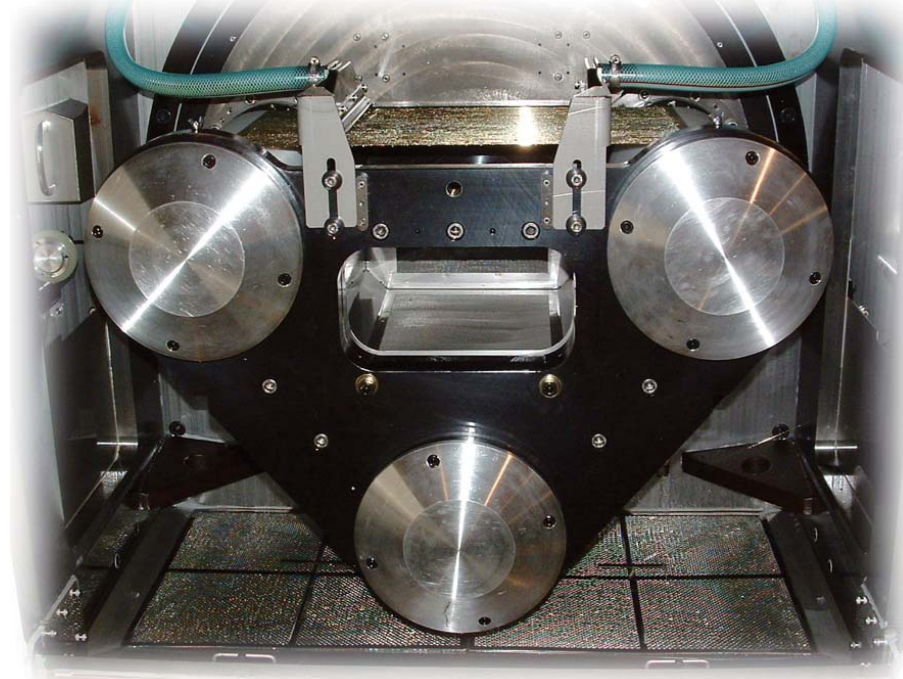
地域が中小企業を後押しすることは、企業が成長した後でも地域を拠点に活躍しつづける誘因となると考えられる。

## 新事業進出へのきっかけ

タカトリの社是は、「創造と開拓」だ。社是どおり昭和20年代後半以降、繊維機械を次々と開発し事業を拡大した。「昭和45年には、パンティストッキングの股上の裁断から縫製、抜き取り、引きそろえまでを自動で行う『ラインクローザー』を開発しました。作業者一人が8時間で2400足もの縫製を可能にしたこの製品は、世界各国から引っ張りだこのヒット商品となり、売上げも100億を超える成長を遂げました」

普通の経営者であれば、一つ伸びている事業がある間は、ほかの事業に手を出さないことが多い。しかしタカトリでは、繊維機械の売上げが伸びている間に、培った技術をいかし、昭和58年に半導体機器分野に進出した。

「ある商社が、コンピューターシステムや電子機器の心臓部として、半導体機器事業が重要になってくると感じ、技術の転用ができると思われた繊維機械メーカーに声掛けをしました。そんな中、タカトリにも話が来たことが、電子機器分野に進出するきっかけとなりました。弊社では、社是どおり『世の中にないもの、新しいもの、他社が取り扱わないのを創れ』という考え方がベースにあります。この時、新分野進出への判断が行われたからこそ、後に繊維分野の売上が落ちてきても、企業自体は衰退することなく、主要事業の転換を行いながら、成長できたわけです」



マルチワイヤーソーの心臓部。3軸のスピンドルを揺動させるという独自機構により高精度切断を実現



テストカット室及び研究施設『スライシングラボ』



販路開拓のため、展示会に出展（産業交流展2010）



本社工場。奈良県ハイテク工場団地協同組合と隣接する

基幹事業の成長過程で新分野進出を果たすことは、経営資源の乏しい中小企業にとって、非常に難しい選択だが、企業理念に従って取り組んだことが、タカトリの成長を導いたのだ。

## マルチワイヤーソーの開発

「提供する機械の仕事が変わっても、機械製造業であることには変わらない」という信念は、マルチワイヤーソー事業という新たな事業展開にもつながっている。繊維業界の設備投資が縮小しつつある現状に危機感を持っていたタカトリは、大手商社からの声掛けをきっかけに高額な設備投資を決断し、ワイヤーソー事業に参入した。

「ワイヤーソーは、カセットテープのテープのようにロールに巻き付けたワイヤーを、もう一方のロールに巻き取る間にワイヤーで物を切ります。ワイヤーを何重にも巻き付けて、一度にたくさんの物を切れるようなものを『マルチワイヤーソー』といいます。ワイヤーでゆで卵を切る器具をイメージしていただくと分かりやすいと思います。これを使用することで、ウェハと呼ばれる電子部品の元となるものを製造できるんです」

タカトリでは、平成2年にシリコンや水晶、サファイアなどを、ダイヤモンドワイ

ヤーを往復走行させながら揺動させることにより、材料ロスが少なく大量・高精度にカット可能な、独創的なLEDや太陽電池向け製造装置を開発した。「現在、LEDの基盤や半導体の素材として使用されるサファイア加工用ワイヤーソー市場では、9割以上の世界シェアを獲得しています」

こうした取り組みが、カット技術のオンリーワン企業として、また、地元協業企業群との連携も評価され、平成22年には、奈良県ビジネス大賞最優秀賞を獲得している。

## 更なる事業展開に向けて

事業展開に際しては、研究開発においても販路開拓においても、良いパートナーを見つけ、連携しながら発展していくことが重要となる。

「弊社は、『7つの戦略的コア技術』（貼付、剥離、制御・情報処理、クリーン、カット、搬送・駆動、真空）を更に強化するため、本社の隣に、繊維・精密・一般産業の設計・製造・加工業者に集結いただき、これらの企業が組織化した『奈良県ハイテク工場団地協同組合』と連携を図っています。新事業展開により関係が薄くなったところもありますが、部品の必要性はなくなるものではなく、現在も

主要取引先の一つとして共同して製品作りを進めています」

また、タカトリは、積極的に競争資金（委託費、補助金等）を活用する意向を示している。

「新分野・新技術開発に際してのリスクを軽減する効果はもちろんありますが、一番の目的は社内にベンチャー精神を取り戻すことです。今後、高鳥会長の理念を共有できる人材育成に力を入れていかなければと考えており、社内啓発のためにも、競争資金の活用は効果的だと思っています」

平成22年度には、戦略的基盤技術高度化支援事業に採択された。

「地元の奈良高専と協力し、マルチワイヤーソー事業における更なる技術開発を進めています。ほかにも、低炭素社会実現に向けたナショナルプロジェクトにも参画し、産学官が一体となったSiC（シリコンカーバイド）ウェハの開発を目指しています」

地場産業の成長を支えてきたタカトリは、世界ナンバーワン企業となった現在でも、地域のネットワークを活かした取り組みを奈良県で展開しようとしている。同社の今後益々の活躍と、新たな世界企業が奈良県から生まれることを期待したい。

株式会社 タカトリ	
[住 所]	奈良県橿原市新堂町313-1
[業 種]	半導体製造装置製造業
[代 表 者]	代表取締役会長 高鳥王昌
[資 本 金]	96,300万円
[従 業 員 数]	199名
[取 材 日]	平成22年8月30日(月)
[取材対象者]	経営企画室長 福光秀之氏、経営企画室 高鳥寿永氏

沿革	
昭和25年	高鳥王昌氏が創業
昭和31年	(株)高鳥機械製作所設立
昭和45年	パンスト股上自動縫製機を開発・販売
昭和60年	(株)タカトリに改名
平成2年	マルチワイヤーソー開発・販売
平成22年4月	奈良県ビジネス大賞受賞

福光経営企画室長(右) 高鳥氏(左)

